

2017/11/4 第90回日本社会学会大会

## 若者の友人関係とジェンダー (1)

向かい合い型／横並び型の

関係性類型に着目した計量分析

辻 大介 (大阪大学)

## 【 本報告の目的 】

向かい合い型／横並び型という関係性類型の観点から、友人関係のジェンダー差に関する先行研究で、しばしば指摘されてきた2点について、多少の知見を追加する

- ① ジェンダー間にみられる友人関係の性質の差は伝統的（というか近代的）な性役割に適合的
- ② 女性の友人関係は男性のそれより劣ったものと見られがち（だが、実際はそうでもない）

(Allan 1989=1993, Jones, Bloys & Wood 1990 など)

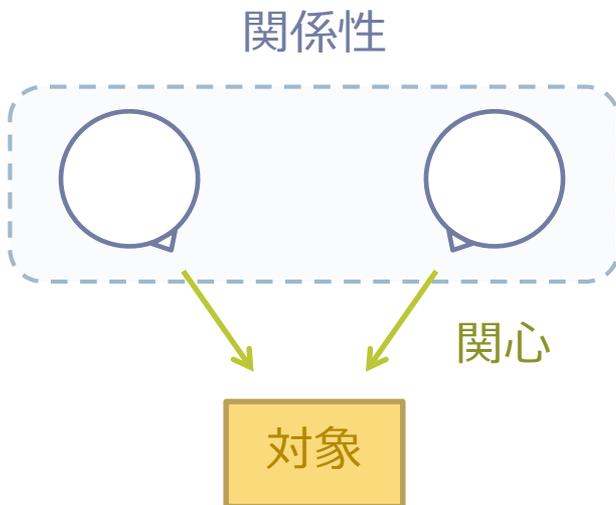
## 【 先行研究 】

〔先行研究の〕示唆するところをまとめると、男性にとって友情は、相手とともに何かしらの外部的な仕事や活動に向かう、**横並びの関係性**になる傾向にあり、女性にとって友情は、たがいに相手を個人的に知り、関心を向け合う、**向かい合いの関係性**になる傾向にある。

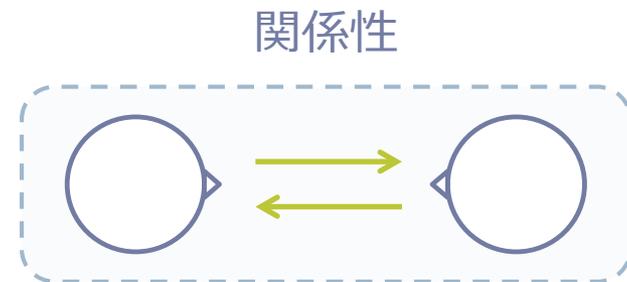
(Wright 1982 : p.8)

# Wright(1982)による友人関係の2類型

## 横並び型 (Side-by-Side)



## 向かい合い型 (Face-to-Face)



## 向かい合い型の関係性

- ① ロマンティック・ラブにもとづく結婚観（ひいては家族に愛情をそそぐ母親役割）に適合的
- ② 横並び型のように外部的関心事を共有しないため相手に関心を向けていることを示しつつづける必要  
→ 他愛ないやりとりを頻繁に  
(→ 表面的な脆い関係にみられがち)

調査データからこれらを検証 ⇒

## 【用いるデータ】

- 青少年研究会2012年11～12月質問紙調査
- 東京都杉並区・兵庫県神戸市在住の16～29歳男女
- 訪問留置回収（一部郵送回収）
- 2段無作為抽出
- 有効回収票1050ケース（有効回収率43.7%）

## 【 分析 1 】

# 向かい合い型／横並び型の関係性類型の抽出と ジェンダー差の確認

(注)

- 以下のOLS重回帰分析、ロジスティック回帰分析の結果についてはすべてVIF<2（多重共線性の懸念はない）
- ロジスティック回帰分析の標準化係数は、Menard(2002)の方法によって計算

新しく友だちを作るときに、  
役に立ったメディアの使用や話題

	女性		男性
携帯電話での通話やメール	37%	>>>	26%
ブログやSNSの利用	41%	>>>	26%
動画サイトにおける作品の話題	13%	<<	20%
それ以外のネットサイトの話題	7%	<<<	20%
マンガの話題	29%	<<<	45%
テレビゲームの話題	9%	<<<	37%
音楽の話題	48%	≡	48%
テレビ番組の話題	40%	≡	36%

n=1047 ( <<< 0.1%水準, << 1%水準, < 5%水準 の有意差)

# カテゴリーカル因子分析の結果

(WLSMV推定、Geomin斜行回転)

	FtF 因子	SbS 因子
携帯電話での通話やメール	.47	.08
ブログやSNSの利用	<b>.69</b>	-.13
動画サイトにおける作品の話題	.49	.53
それ以外のネットサイトの話題	.40	.55
マンガの話題	.00	<b>.83</b>
テレビゲームの話題	-.14	<b>.90</b>
音楽の話題	.30	.51
テレビ番組の話題	.20	.42

## F t F / S b S 因子と友人数

(数値は標準化後の偏回帰係数  $\beta$ )

OLS回帰	親友数	仲のよい 友だち数
性別ダミー (女1, 男0)	-0.08 *	-0.06
年齢	-0.11 ***	-0.17 ***
学歴 (大卒以上1, 未満0)	.05	.01
<hr/>		
F t F 因子得点	.16 ***	.22 ***
S b S 因子得点	-0.05	-0.11 **
<i>adj. R<sup>2</sup></i>	.03 ***	.07 ***
<i>n</i>	1034	1022

(\*\*\* 0.1%水準, \*\* 1%水準, \* 5%水準 の有意性)

## F t F / S b S 因子の関連属性

(数値は標準化後の偏回帰係数  $\beta$ )

OLS回帰	FtF 因子	SbS 因子
性別ダミー (女1, 男0)	.10 ***	-.25 ***
年齢	-.18 ***	-.12 ***
学歴 (大卒以上1, 未満0)	-.02	-.04
心理読解力	.08 **	-.03
心理表現力	.11 ***	.04
<i>adj. R<sup>2</sup></i>	.07 ***	.08 ***
<i>n</i>	1038	1038

心理読解力...「表情やしぐさで相手の思っていることがわかる」

心理表現力...「感情を素直にあらわせる」

## (分析1の小括)

- 女性の友人関係は向かい合い型(FtF)、男性は横並び型(SbS)の傾向が強い
- 向かい合い型は友人数が多く、横並び型は少ない
- 向かい合い型の友人関係には、ある種のコミュニケーション力（心理読解・表現）が必要

## 【分析2】

向かい合い型／横並び型の関係性と  
結婚観・異性交際との関連

「結婚するなら好きな人としなければ  
幸せになれないと思う」

ロジスティック回帰	標準化係数 $\beta$
性別ダミー (女1, 男0)	.00
年齢	.02
学歴 (大卒以上1, 未満0)	-.03
.....	
F t F 因子得点	.10 *
S b S 因子得点	-.06
親友数	-.01
<hr/>	
<i>Nagelkerke R<sup>2</sup></i>	.01 (n.s.)
<i>n</i>	1030

「恋愛結婚でなくとも、  
適齢期になったら結婚したい」

ロジスティック回帰	標準化係数 $\beta$
性別ダミー (女1, 男0)	.10 **
年齢	-.05
学歴 (大卒以上1, 未満0)	.04
.....	
F t F 因子得点	-.05
S b S 因子得点	.08 *
親友数	.01
<hr/>	
<i>Nagelkerke R<sup>2</sup></i>	.02 *
<i>n</i>	1030

(充実していると感じるとき)  
「親しい異性といるとき」

ロジスティック回帰	標準化係数 $\beta$
性別ダミー (女1, 男0)	-.01
年齢	.15 ***
学歴 (大卒以上1, 未満0)	.06
.....	
F t F 因子得点	.24 ***
S b S 因子得点	-.08 *
親友数	.12 ***
<hr/>	
<i>Nagelkerke R<sup>2</sup></i>	.11 ***
<i>n</i>	1030

(充実していると感じるとき)

「他人にわずらわされず、一人でいるとき」

ロジスティック回帰	標準化係数 $\beta$
性別ダミー (女1, 男0)	.12 ***
年齢	.10 **
学歴 (大卒以上1, 未満0)	.04
.....	
F t F 因子得点	-.03
S b S 因子得点	.18 ***
親友数	.01
<hr/>	
<i>Nagelkerke R<sup>2</sup></i>	.05 ***
<i>n</i>	1030

## (分析2の小括)

- 向かい合い型(FtF)は、ロマンティック・ラブにもとづく結婚観が強い、異性交際にも積極的
- 横並び型(SbS)は「適齢期がきたら結婚」観が強い、異性交際にも消極的、一人でいるときに充実感

## 【分析3】

向かい合い型／横並び型の関係性と  
交友の作法・意識との関連

## プライベートでの携帯メール送信数

OLS回帰	標準化係数 $\beta$
性別ダミー (女1, 男0)	.00
年齢	-.08 *
学歴 (大卒以上1, 未満0)	-.05
.....	
F t F 因子得点	.19 ***
S b S 因子得点	-.11 **
親友数	.09 **
<hr/>	
<i>adj. R<sup>2</sup></i>	.06 ***
<i>n</i>	1017

# 「いつも友だちと連絡をとっていないと不安になる」

OLS回帰	標準化係数 $\beta$
性別ダミー (女1, 男0)	.09 **
年齢	-.11 **
学歴 (大卒以上1, 未満0)	-.04
.....	
F t F 因子得点	—
S b S 因子得点	—
親友数	—
<hr/>	
<i>adj. R</i> <sup>2</sup>	.02 ***
<i>n</i>	1033
<hr/>	

「いつも友だちと連絡をとっていないと  
不安になる」

OLS回帰	標準化係数 $\beta$
性別ダミー (女1, 男0)	.06
年齢	-.07 *
学歴 (大卒以上1, 未満0)	-.04
.....	
F t F 因子得点	.16 ***
S b S 因子得点	-.07
親友数	.08 **
-----	
<i>adj. R</i> <sup>2</sup>	.05 ***
<i>n</i>	1033

# 「親しい人から自分がどう思われているかが 気になる」

OLS回帰	標準化係数 $\beta$
性別ダミー (女1, 男0)	.07 *
年齢	-.11 ***
学歴 (大卒以上1, 未満0)	.01
.....	
F t F 因子得点	.10 **
S b S 因子得点	.06
親友数	.01
<hr/>	
<i>adj. R<sup>2</sup></i>	.03 ***
<i>n</i>	1028
<hr/>	

「人の話の内容が間違いだと思ったときには、  
自分の考えを述べるようにしている」

OLS回帰	標準化係数 $\beta$
性別ダミー（女1, 男0）	-.05
年齢	-.03
学歴（大卒以上1, 未満0）	.05
.....	
F t F 因子得点	.14 ***
S b S 因子得点	-.03
親友数	.11 ***
<hr/>	
<i>adj. R<sup>2</sup></i>	.03 ***
<i>n</i>	1028
<hr/>	

(親友について)

「ケンカをしても仲直りできる」

ロジスティック回帰	標準化係数 $\beta$
性別ダミー (女1, 男0)	.01
年齢	.02
学歴 (大卒以上1, 未満0)	-.07
.....	
F t F 因子得点	.14 ***
S b S 因子得点	.00
親友数	.06
-----	
<i>Nagelkerke R<sup>2</sup></i>	.04 ***
<i>n</i>	934

## (分析3の小括)

- 向かい合い型(FtF)は、友人接触が高頻度、自分がどう思われているかが気になり、接触がないと不安に
- しかし、友人との摩擦・衝突を回避しているわけではなく、関係はむしろ強靱
- 横並び型(SbS)は、友人接触が低頻度、接触がなくても不安にならない

## 【まとめ】

- 向かい合い型の関係性はロマンティック・ラブにもとづく結婚観と関連
- 向かい合い型の関係性は不安をはらみやすいが、脆い紐帯というわけではない（むしろ強靱）

## 【 今後の課題 】

- 向かい合い型／横並び型を把握する設問の彫琢
- 横並び型と男性役割の関連の検証
- これだけ特性の異なる関係性が、なぜひとつに括られうるのか（「友人」「友情」の概念分析）

## 文献

- Allan, G., 1989, *Friendship: Developing Sociological Perspective*, Harvester Wheatsheaf. (=1993 仲村祥一・細辻恵子訳『友情の社会学』世界思想社)
- Jones, D.C., Bloys, N., & Wood, M., 1990, Sex roles and friendship patterns, *Sex Roles*, vol.23-nos.3/4, pp.133-145
- Menard, S., 2002, *Applied Logistic Analysis (2<sup>nd</sup> ed.)*, Sage.
- 辻大介, 2015, 「つながる——友人関係とジェンダー」, 伊藤公雄・牟田和恵編『ジェンダーで学ぶ社会学〔全訂新版〕』世界思想社.
- Wright, P.H., 1982, Men's friendships, women's friendships and the alleged inferiority of the latter, *Sex Roles*, vol.8-no.1, pp.1-20.